

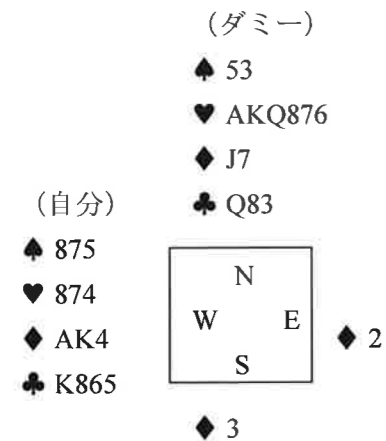


「今、ここで」=ディフェンスで常に考えるべき点

2017.01.20

ディフェンスしているときに常に考えなければならない大事なことの1つに「今、ここで」、英語で **here & now** といいます。あるカードをリードをするときにこれを考えねばなりません。つまりそのカードを「この場面、この時点で」リードしなければならないのかそうでないのかということです。例を示してみましょう。♠ AKJ542 ♥ 64 ♦ 82 ♣ Q53 を持って右の6Dへのオープニングリードです。♠ A を取ってみました。(A from AK) ダミーからは♠ Q987 が出てきて、パートナーからは♠ 3 が出て、ディクレーラーからは♠ 10 が出てきます。次にどうしますか？スペードは自分が6枚、ダミーから4枚出てきましたから、6-4-2-1 のブレイクでパートナーか、ディクレーラーのどちらかがシングルトンです。パートナーがダブルトンならダブルトンシグナルをするはずと考えて♠ K を出すべきでしょうか？パートナーがダブルトンならディクレーラーがシングルトンで、ラブされてダミーの♠ Q をウィナーにしてしまいます。しかし考えるべき筋道は次の通りです：もしディクレーラーが2枚のスペードを持っているとしたら、ダミーの何かでそれをディスカードされてしまうでしょうか？ダミーは♠ Q987 ♥ J32 ♦ KJ83 ♣ K6 でした。これでハンドのスペードのルーザーをディスカードできるサイドスーツがあるでしょうか？ありませんね！つまりじっとしていてもあとで取れるならば取れるはず。こういう状況を「ルーザーは逃げていかない」(ディクレーラーのルーザー) という言い方をしたりします。逃げていかないならば、リスクを冒して自分からすぐに取りに行く必要はまったくないのです。

逆に逃げてゆく状況もあり得ます。コントラクトは4S。自分がオープニングリードで♠ 875 ♥ 874 ♦ AK4 ♣ K865 を持っています。♦ A をリードしてみました。(A from AK) するとダミーが開いて



パートナーからは♦ 2、ディクレーラーからは♦ 3が出てきます。さて状況はどうでしょうか？ここはすぐにこちらのトリックを取り切らないと、相手にハートでディスカードされてしまいそうです。だからセカンドトリックに♠ K ! を出します。まさに「この場面、

この時点で」ですね。♣ K はディクレーラーの♣ A に取られてダミーの♣ Q も取らせる恐れがあり、普通は自分からは触らないポジションのもので、じっとしていればダミーのハートでディスカードされてしまうものですから、リスクを冒してでもリードすべきものなのです。

もう一つ「今、ここで」を見誤った例を示しましょう。「初級者はディフェンスが苦手」の典型的な例です。初級者はえてして早くトリックを取ろうとしすぎ、我慢が足りないときをよく見かけます。つまり少しでも今取れる可能性のあるものにすぐすがりつこうとしすぎるのです。例えばこの例を見てください。コントラクトはSの4Sです。♥ A をオープニングリードしました。パートナーから♥ 2 がディクレーラーからは♥ 10 が出ます。ここで初級者は、パートナーに♦ A があれば1ダウンするからと考えて♦ Q をリードしたりしがちです。しかしこの時点で出さねばならないかということを考える必要があります。ディクレーラーがダイヤモンド xx を持っている時に成功するわけですが、①その xx が逃げてゆくかどうか、あるいは②ダミーのダイヤモンドが3枚ディスカードされてしまうことが起きるかどうかを考えねばなりません。①はダミーを見るとディスカードできそうなスーツはありませんね、また②が起きるにはディクレーラーのクラブが5枚あるときに起きる可能性があるのですが、自分がクラブJの4枚を持っていますから5トリック続け様に取られてしまうということはないはず。したがって今♦ Q をリードする必要がないという結論になります。クラブかトランプでエグジットしておけば5メークです。♦ Q をリードすると6メークされてしまいます。これはダウンさせることが出来ない例ですが、オーバートリックされないことは、ペアマッチのときには極めて重要です。

